

# 子供の虚言

——眞實への教育(二)——

東京女子高等師範學校助教

倉澤剛

## 五

子供の虚言の問題として、第二に注目すべきものは「思ひちがひ」、即ち「記憶の錯誤」Erinnerungsstäuschungenである。子供は自分の體驗について、好んでこれを語らうとする。しかし、子供の記憶は頗る不正確であるから、その語るところには、屢々眞實でないものが見られる。けれども、子供の誤つた言ひ立てを、すべて虚言と考へるのは誤解である。子供自身において、今言つたことは本當のこゝではないといふ意識があり、これによつて他人を欺かうといふ意圖があるとき、始めてこれを虚言と呼ぶべきである。かういふ基準に立つて考へるを、親達がいろ／＼と心配してゐる子供の誤つた言ひ立ては、大部分が決して虚言と叫ばるべきものでないことが知られる。何故なら、子供には、言ひ立ての不眞實といふ意識もなく、誤つたこゝを殊更に言はうとする意圖もなく、いはゆる「虚言の徴表」

を具へてゐないのが通例だからである。先に述べた「幻想による虚言」もこれであり、こゝに述べようとする「思ひちがひ」もまたこれである。

さて、「思ひちがひ」、乃至「記憶ちがひ」による誤つた言ひ立ては、多くはどんな理由から生ずるのであらうか。殊に幼児において、過去の體驗を再生するに當つて、随分不正確なこゝを口にするが、これは果してどんな理由に基づくのであらうか。その第一は、恐らくは幼児における「時間の意識の缺陷」であらう。生後一年間は、子供は實際に自分の體驗したこゝを、過去の何時のこゝであるか、全然定めるこゝが出来ない。最初の誕生日を迎へるまでの一年間は、子供には殆んど何等の時間意識もないといはれてゐる。彼等はあるこゝを、つい昨日體驗したこゝなのか、或は數週間前に體驗したこゝなのか、その區別が出来ないのである。それ故、子供の記憶のなかに、秩序を明瞭ささ

表はれて来るのは、既に精神的にある程度の成熟を遂げて来たここの一つの證左に見なければならぬ。かやうな正確な時間意識から、自然に數多の誤つた言ひ立てが生ずるのである。

けれども、子供の記憶の錯誤は、時間の意識の缺陷にもとづくだけではない。同時にまた子供の「注意力の缺陷」にもとづく場合が多い。子供にあつては、多くの體驗は頗る不完全に印象せられるに過ぎないものである。大多數の子供は、凡そ十二歳の頃までは、多かれ少かれこの種の表面的な見方に止まるものゝやうである。餘程しやんごした子供でも、この種の輕さ・淋さ・不たしかさは、免れがたいものゝやうである。既に子供の心意がかくも不たしかな状態にある以上、この中に取入れられた印象が、何等明瞭な形をとり得ないのは當然のこゝである。つまり、ある一部の體驗さ、それに應ずる記憶さが、偏して強調されるやうになるのも、當然のこゝである。しかし、概していふならば、大抵の印象さいふものは、本來ありふれた種類のもののであるから、特に子供の心に深い印銘を與へるこいふやうなこゝさはない。従つて、何等悪い意圖があるわけではなくして、もうすつこ大きくなつた子供にすら、しばしく誤つた言表が見られるのである。

## 六

かやうな記憶ちがひによる誤つた言ひ立ての例は、學校生活の間にも無數にある。よく子供は教科書さか、筆入さか、ノートさか、ナイフさか、鉛筆さかを失つたさか、或は誰かに盗まれたさか、現に先刻手にまつて使つたのだのにさか、今朝お母さんが眼の前で入れて下さつたのにさか、まこさしやかに言ひ立てる。時には隣席の子供たちまで、今朝實際に見たこゝがあるなさか、まこさしやかに言ひ添へたりする。さころが、それらは、カバンに入れたつもりで、實は家においてあつたさか、決してこれを虚言さかある。この種の誤つた言ひ立ては、決してこれを虚言さかふこゝは出来ない。それは、せいふく、「自分自身に對する不忠實」さか、いふに止まり、結局は體驗の再生が不たしかさか、いふに過ぎないからであつて、この種の不たしかさは、子供の世界だけでなく、大人の世界にも無數に見られるものである。

コピウスによれば、プレスラウの一教師は、彼の受持の子供について、示唆に富んだ一つの實驗を試みてゐる。或る日の第一時間目に、彼は教卓の上に小刀さか、チョークさか、ペンさかを置いて授業をすまし、子供が教室を立去つて後、三つの事物を引出しの中に片付け、さて第二時間目の初に、「前の時間、先生の机の上には何があつたか、覚えてゐる人はそれを言つて御覽なさい。」と問うた。約五十人のクラス

の中、たゞ二人、しかも智能率の低い二人が、僅かに小刀があつたことに注意したゞけであつて、一人として三つの事物のあつたことに注意の及んだものはなかつた。この教師はかやうな事實に一驚を喫したが、更に暗示の力を試みようといふ考から、實はこれ／＼の三つの事物を置いてあつたのだゞ告げ、その翌日になつて、第一時間目に、今度は机上に何も置かず、全く空にしておいて、さて第二時間の初に、前日と同様の質問を發したところ、二六％の子供は小刀があつたゞ答へ、五七％の子供はチョークがあつたゞ答へ、更に六三％の子供はペンがあつたゞ答へた。尤も％の合計が百を超えてゐるのは、恐らくチョークとペンと兩方あつたやうに答へた子供があつたゞめであらう。この實驗によつて示唆されることは、第一に、子供の觀察が如何に不正確であるかといふこと、第二に、觀察したことを再生する場合に如何に不明瞭であるかといふこと、そして第三に、子供の言ひ立てといふものは、外からの暗示によつて、如何に容易に影響されるかといふことの三つである。

## 七

このことから、まづ注目すべきものは、「根掘り葉掘り問ひたゞすことの危険」である。世には子供に向つて、見たこと、聞いたこと、したことを、あゝか、かうか尋ね廻す人がある。例へば、「そのお母さんはきれいに着飾つて

ましたか。」「その子は赤い外套を着てましたか、青い外套を着てましたか。」「先生はそれから何もおつしやいましたか。」「あなたはそれに何もお答へしましたか。」「いふやうに、單純な無頓着な子供に根掘り葉掘り尋ね廻す人がある。このやうな發問は、子供を全然の虚構に誘はないまでも、少くも子供から不正確な答を引出す危険が少くない。たゞに無意識的な「想起の錯誤」に導くのみでなく、進んでは意識的な不眞實に導く虞が少くない。ウィリアム・シュテルンも、この種の愚かな發問の系列を示して反省を促し、人が如何に子供の言ひ立てに信をおきがたいものであるかを警告してゐる。私達は決して必要以上の問を子供の上にあびせてはならない。なるべく平靜の状態を保たしめよきは、こゝでもまた保育の大切な原理に掲げられる。

同様のことは、多くの大人にも屢々見ることが出来る。

「え、私はさう思ひます。」「さか、「僕はかうだつたゞ信するよ。」「さかいふ、いはゆる半信半疑の言ひ方は、我々の世界にもいくらでもある。たゞ、いつも眞實を語らうと良心的につゞめる人々、不明確なことを、不明確さ知りつゞも、まことしやかに言ひ立てる人々によつて、著しい差違がある。この點は後更に考へて見る。さもなく、子供の記憶は頗る不確實であるから、これに基づいて、不確實な言ひ立

や四週間の期間にては到底充分なことが出来なくなつたので御座います。勿論實費以上を申しましたも、これで收支が償ふわけはありませんが、従來の無料より有料となり、現在は齒科醫師會の標準料金を徴収してゐるのでございます。

## 六、希望

御話は前に戻りますが、實施上最も大切なことは、よき齒科醫を得ることであらうと思ひますが、私の子供を思ふ親心の満足は申しませうか、さうしても得られない事で御座います。勿論私は素人で御座いますから處置方法について申すではありませんが、何と申しませうか、素人の言葉で後始末がつかないのです。これは實施方法の大きな缺陷で、幼稚園經營上の困難といふ大問題になると思ひます。

病氣は都合のよい時ばかり出てこない。治療週間でないから一寸痛みを待つて貰ひたい、都合が悪いから病氣を明日に……、年中無休に少くも一週三日位の治療日を設けたい。感染根管などの家庭にて行き届かざるものなごは、一年も二年も幼稚園にゐるうちに、これらの治療が出来その他の治療も行つてゆきたい。豫防治療程度のものでなく徹底的にしたい。實に第二の國民保健のため大きな國家問題であると思ひます。

しかし扱つかうなりますご、次ぎに來る問題は經費で御座います。私は幼稚園に入れば、齒みがきが全部に實施され

てゐるやうに、全部が診療を受ける。齒のみでなしに體のごとも、私共では百日咳の豫防注射、デフテリアの注射、檢便などもしてゐますが、すべて幼児の保健に對して全部出来るやうな方法を講じたい、かうした費用を保育料のうちも含めることを當然としてゆきたい、またかうした費用を出し得ない状態にある幼稚園では當局で何かよい御考を願ひたいことを切望して止まないであります。私は未熟乍ら止むに止まれぬ氣持より幼稚園に於ける齒科衛生施設に多大の關心を持つ一人であり、今後更には幼児期の保健衛生には一層献身したいと思つて居ります故、何分もよろしく御後援を御願ひ申上げる次第であります。終りにかうした發表の機會を御與へ下さいましたことを感謝致します。

(六頁より續く)

てをする場合が極めて多い。これを普通には「記憶的虚言」Erinnerungslüge と呼んでゐるが、この種の虚構も誤つた言ひ立てにいふに過ぎず、未だ本來の虚言といふことは出来ない。私達は子供に對して、明瞭に事物を見よ、正確に事態を知れ、そして自己に忠實たれと念じ、この方向に子供を導くべきで、これを虚言として責むべきでないことは言ふまでもない。